

# 慈明院寺報四月号

## 花までも心ありけり高野山



江戸時代の学僧・雲石堂寂本の詠んだ歌「花までも心ありけり高野山浮世の春を遁れてぞ咲く」私が坊さんの修業時代を過ぎた高野山には、桜がたくさん植えられていた。高野山の春は遅い。桜の開花は麓の九度山町よりも二十日ほど遅くなる。標高差八百メートルをゆつくりと桜前線が登つてくる。高野山・金剛峯寺前のしだれ桜と桜並木、伽藍の西行桜、清淨心院の傘桜など有名な銘木も多く、春は寺で飼っていた犬の散歩が楽しかった。

開創から千二百年を越える高野山。この歴史ある土地には竹が生えていない。

明治時代のはじめまで、高野山には「山上禁忌」と呼ばれる厳格な規則が存在した。この掟の中に「禁植有利竹木」(利の有る竹木を植える事を禁ずる)という規則があった。これは果樹や漆など、加工しやすく人々の役に立つ竹木であっても、勝手に植えてはならないという森林政策の一種であった。

この規則の目的は「森厳護持」である。信仰の森の厳しさを保つ為の政策であつた。便利な役に立つ木ばかりを植えれば、そこは里山と呼ばれる低木林になつてしまい、聖地・高野山の信仰環境としてふさわしくない。高野山奥の院にそびえる樹齢三百年～六百年の大杉林は、言葉では言い表せない厳かな雰囲気を醸している。まさに花も大杉も、人が心を注いで高野山という淨土を形成してきた。

「一年先を見る人は花を植える。十年先を見る人は木を植える。百年先を見る人は人を育てる。」と言われる。はるか昔、弘法大師が信仰の種を植えられた高野山は今年、弘法大師生誕・千二百五十年を記念して五月に法会が當まれる。誕生法会にはたくさんの人々が高野山に参拝するだろう。高野山の春を想いつつ、お釈迦様にお花を飾り花まつりの準備にかかる。

住職 合掌

## 春のお彼岸まいりについて

本年は三月十八日(土)より、春のお彼岸まいりをお勧めさせて頂きます。各檀家様には、すでに「お彼岸まいり」のお知らせを送らせて頂いております。

お忙しい時期とは存じますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。住職 九拜 随時、おまいりについてのお問い合わせ、変更など承ります。

## 花まつり 自由参拝のご案内

令和五年 四月一日(土)～四月八日(土)

朝九時～夕方五時位迄



花御堂に誕生仏(お釈迦様)を安置して、甘茶をそいでご供養致します。甘茶、お楽しみ袋(お菓子詰め合わせ)をお接待致します。花御堂のお釈迦様は大師堂に安置しております。大師堂へお参り下さい。どうぞお誘い合わせの上、お参り下さいませ。(別紙参照)

## 住職の独り言

副業のごま豆腐製造・販売を一月末で廃業した。理由としては春四月から宗派の世話役をする事になり、ちょっと忙しくなりそうなので。この世話役亡くなつた親父もやつてたな・・・年齢を感じる今日この頃。(笑)

慈明院(〒八一一一三一 福岡市早良区大字西二三四一-一〇)

Tel (〇九二) 八〇四一四五七〇 FAX (〇九二) 八〇四一四六〇五

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇一(五二八一)一七四九四